

クラス	312	担当教員	小坂 啓史
テーマ	現代芸術・現代文化・サブカルチャーの社会学 ～社会へアクセスする手法としての制作と鑑賞・批評から読みとく社会～		
著書・論文	【近年の研究課題】文化社会学（映画社会学、芸術社会学）、相互行為とケア 2022年「ケアの動機とアフォーダンスについての考察」（論文） 2020年「映画の表現技法におけるモンタージュと鑑賞」（研究ノート）		
研究課題等	2020年「アール・ブリュットと鑑賞教育」（論文） 2020年「芸術への解釈的相互関係の視点とパウル・クレー」（論文）		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：社会学的想像力、現代文化、現代芸術、鑑賞・批評、社会学的研究法			
<b>≪ 内容・方法について ≫</b>			
<b>（１）現代芸術・現代文化・サブカルチャーを社会学で読みとく</b>			
このゼミでは「社会学的想像力」（ミルズ）を用い、制作者によって表現された作品、とくに視覚芸術あるいはサブカルチャーの作品を社会的に読みとく、時代や社会との相互関係について考察していきます。対象としては、実写だけでなくアニメーションを含む映画・映像作品、写真や絵画、マンガなども含まれます。さらにこうした作品が私たちの日常における相互行為にどのように影響しているのかについても考察していきます。			
<b>（２）社会状況・社会問題を現代芸術・現代文化・サブカルチャーで読みとく</b>			
さらに、現代社会における社会問題や社会状況が、さまざまな作品でどのように表現されているか、どのように問題提起されているか（あるいはされていないか）についても考察していきます。作品形態によってどのように描かれ方が異なるか、印象や意味のちがいがどのようにあらわれているかについても考えていきます。			
<b>（３）社会学の研究方法を身につけよう</b>			
そして社会学の研究方法についても、改めて学んでいきます。研究をしたり論文を書いたりするためには、問題関心、研究テーマのブラッシュ・アップのしかたや、それをどのように具体的に分析、考察したらよいかについて分かっている必要があります。そうしたことについても、きちんとおさえていきましょう。なるべく早めに自分が追求したいテーマを見つけて、卒業研究に着手していきましょう。 <b>※なお、社会の理解は一領域では完結せず、総合的な学習と理解が必要となります。このため、他の社会系の先生およびゼミとの相互交流・指導を行います。</b>			
<b>≪ ゼミの進め方など ≫</b>			
最初は共通の文献や論文を取り上げて、まずは分析・考察に必要な知識や方法について目くばせしていきましょう。ゼミでは報告と話し合いをしていくことがメインになります。また、映画ゼミ（テーマとなる映画作品を鑑賞、社会的分析を行っていくゼミ）や、論理的な考え方や書き方について練習するサブゼミを行う場合もあります。さらに、3年生（予定）の夏休み期間に、ゼミ合宿を行う予定です。また、美術展や映画祭（10月頃）へのゼミでの参加も予定しています。 <u>これらへの参加を前提に、エントリーをしてください。</u>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
ゼミでは使わないでほしい言葉があります。それは、「わかりません」「同じです」です（これらのバリエーションも）。わからないことがあれば、きちんと提起をして、みんなで話し合って考えていけばよいですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。もう一つ気をつけてほしいことがあります。それは、意見を単純化させすぎることです（たとえば、「（どうせ）～にすぎない」といった言いまわし）。社会問題など社会で起こるさまざまな現象は、「～にすぎない」など、一言で答えられるほど単純なしくみで現れるわけではありません。またこの意味での単純化は、よくない意味での「シニカルさ」につながり、結局何も考えていないことになってしまう恐れもあります。 上記のようなゼミテーマには初めて取り組むわけですし、わからないことや知らないことがあるのは恥ずかしいことではありません。集中しつつもリラックスして、ゼミに臨んでください。そのための環境づくりには、十二分に配慮していくつもりです。			